境川景観デザインプロジェクト

五味淵　三智

NO.1　河川景観

川という存在。
都市においては重要なネットワークの担い手
水という媒体により、上流と下流を繋ぐだけ
でなく、経済や文化も運ばれていた。
川は街と街の境界線として捉えられることも多い。
同時に川の両岸が川の恩恵を受け経済的にも
発展してきた例も多い。
この場合、川はその街において中心的な存在で
あったといえる。

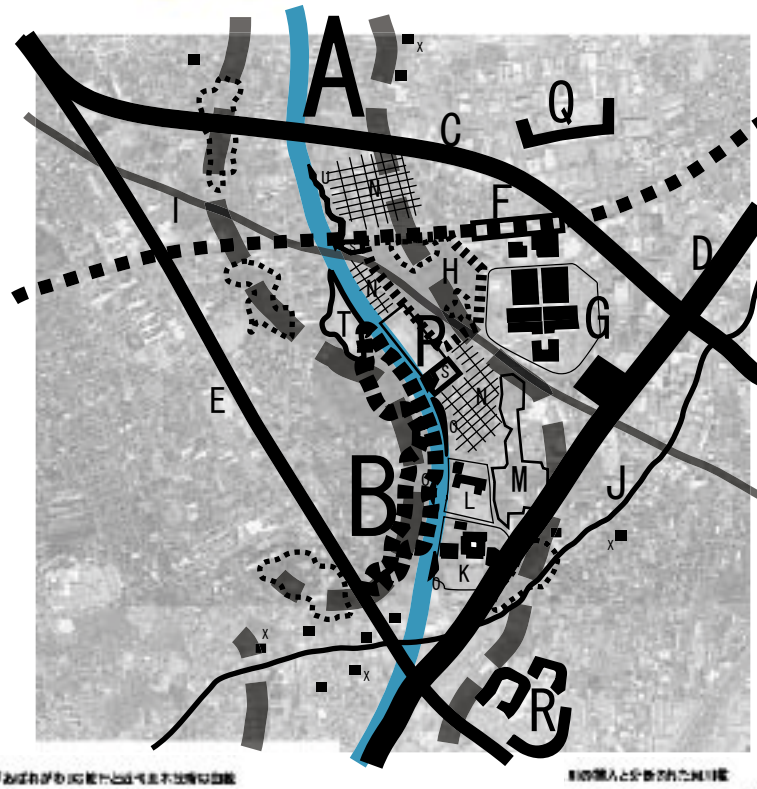
しかし、現在都内では暗渠となって
存在自体が忘れられている川も多い。

今回のプロジェクトの対象地である、
境川も暗渠にはなっていないものの
周囲の住宅は川に対して背を向けて
いる状態である。

街の中心は幹線道路や鉄道沿いに広がり、
住民が自然と集まる空間は駅や
大型ショッピングモールである。

それは日本中に広がる郊外都市の典型的な
景色である。

短絡的な都市開発に頼るのではなく、
長期的に街を考えるとき
その地域にもともとある資源の活用に
ついて考慮する必要があると考える。
この境川鶴間地区においては、
川とその河畔林は大きな資源といえる。



A:境川と河岸段丘

B:境川河畔林

C:国道16号線

D:国道246号線

E:県道56号線

F:東急田園都市線南町田駅

G:グランベリーモール

H:鶴間公園とグラウンド
I：上水道
J:旧大山街道

K：女学館大学
L:鶴間小学校

M:生産緑地帯

N:東急建設開発住宅街

O：ワンズ、旧河川敷

P：せせらぎ広場
Q:
R：マークスプリングス
S:調整池
T：東急建設開発敷地
X:神社、寺

かつての境川は暴れ川と呼ばれるほど
激しく蛇行し、たびたび洪水を引き起こしていた。
近代技術により川が直線化されると、
かつての川によって東京都と神奈川県を分けて
いたため、多くの飛び地が残った。
これらの土地は私有地ではないため、
現在も多くの場所が空き地のまま
残っている。

境川景観資源分布マップ

14 土手2 A9
所在：運動場広場西側の土手
現状：馬等の荒れた土手
ハナエズキの植樹
管理：ルネッサンス

22 せせらぎ広場 A8
所在：運動広場の南側
現状：スポット公園として整備
管理：公園緑地整
ルネッサンス

13 下水道用地5 B4
所在：調整池の南側
現状：全面コンクリート
斜面階段は整備不良
管理：自治会
ルネッサンス

13 調整池1 B6
所在：運動広場の南側
現状：現況緑地外は草地
管理：下水道部
ルネッサンス

12 下水道用地4 B5
所在：調整池北側の民家裏
現状：草地
管理：下水道部

12 旧河川敷3 A6
所在：鶴間2～6の民家裏
現状：草地
管理：ルネッサンス

12 下水道用地3 B3
所在：小学校北側の民家裏
現状：草地
管理：ルネッサンス

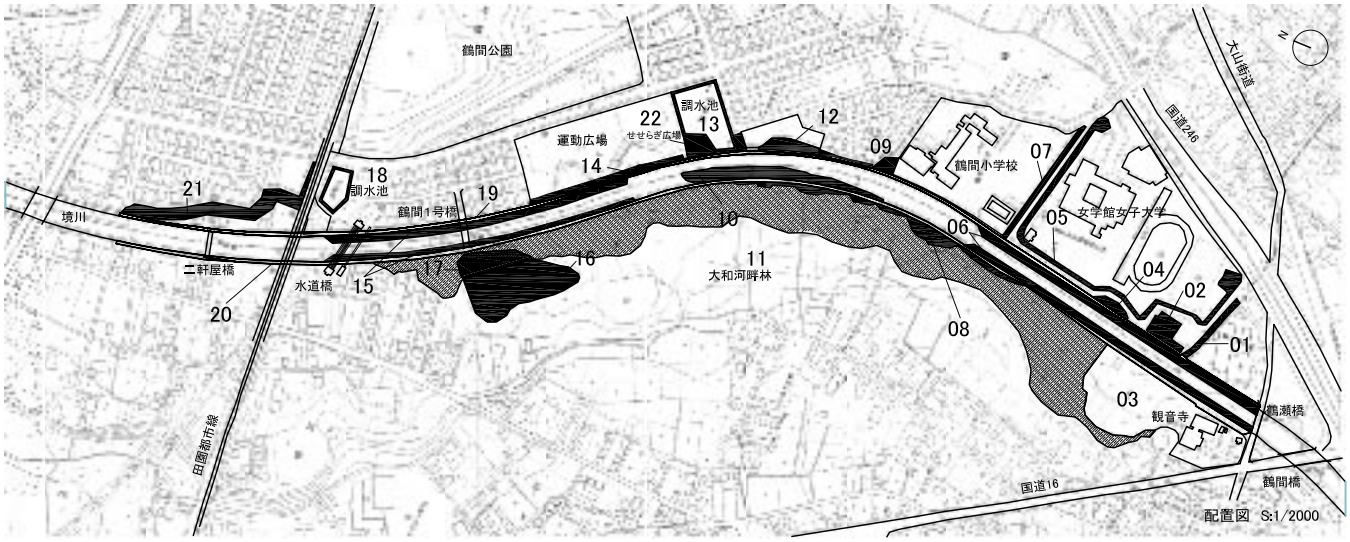
09 旧河川敷2 A5
所在：鶴間2～6の民家裏
現状：草地
管理：ルネッサンス

04 旧河川敷1 A1
所在：女学館の西側
現状：草地
管理：ルネッサンス
南東建

05 土手1 A3
所在：女学館
現状：桜並木
管理：女学館

02 企業敷地
所在：太陽食品販売
現状：白モクレンの樹木
管理：太陽食品販売

07 下水道用地2 B2
所在：鶴間小学校南側
現状：芝生面の水路と草地
管理：ルネッサンス



配置図　S:1/2000

21 旧河川敷7 A12
所在：
現状：
管理：

18 調整池2 B7
所在：鶴間1号橋の南東面
現状：草地
管理：東京都河川部

16 旧河川敷6 A11
所在：鶴間1号橋の大和側
現状：草地
管理：東急

17 旧河川敷5 A10
所在：グランベリーモール駐車場の眺望
現状：草地
管理：南東建

15 河川壁2 R2
所在：鶴間1号橋付近
現状：3mの対応の斜壁
管理：南東建

11 河畔林 A2
所在：大和側の畑とグラウンドの間
現状：手入れ不足の雑木林
管理：地主

19 河川沿い歩道
所在：河川沿い
現状：歩道
管理：

10 河床の草地 A7
所在：大和河畔林沿いの川の中
現状：草地
管理：ルネッサンス

08 旧河川敷4 A4
所在：大和側河畔林の中
現状：大立
管理：南東建

06 河川壁1 R1
所在：女学館の西側
現状：3mの対応の斜壁
管理：南東建

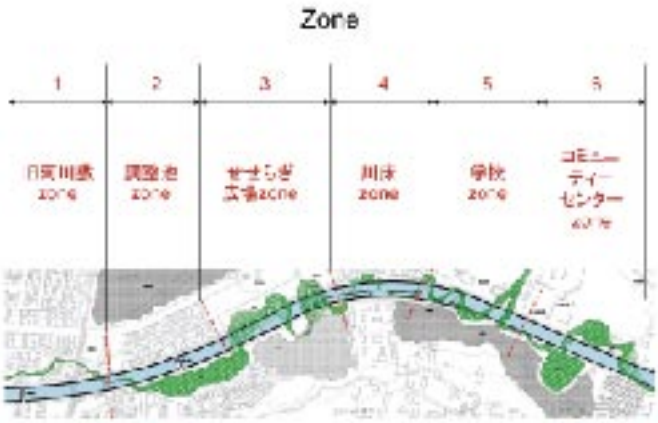
03 畑と花木 C1
所在：観音寺の北側
現状：2月の場
3月のたくれん
管理：地主

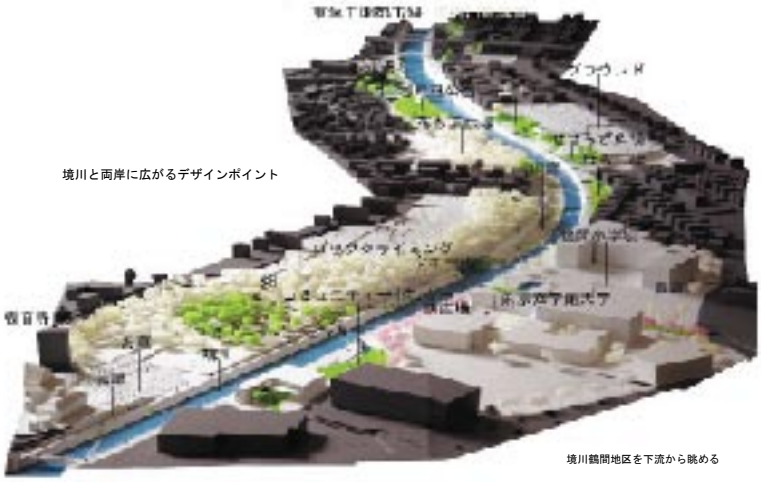
01下水道用地1 B1
所在：太陽食品販売南側
現状：全面コンクリート
管理：マンション管理組合
（下水道部）

・記号分類
R:　河川壁
A:　旧河川敷、河床の草地、河畔林、土手
B:　下水道用地、調整池

NO.2　ゾーニング

五味淵　三智





境川鶴間地区を下流から眺める

1
整備がすでに
済んでいる旧河川敷をたどった
閑静な住宅街の中を貫ける散策路。
現境川の直線的ルートとは対照的で
かつての暴れ川の蛇行の様子を
しのばせる。

2
境川と東急建設住宅開発地に挟まれた土地には東京都により調節池が建設予定である。この調節池をさまざまな自然志向型親水活動のできる空間として提案する。

3
旧河川敷を意識しながらグラウンドの土手の形状を再構築することでせせらぎ広場を中心として河畔林との関係等を再編集する。

4
河畔林内の住宅地の開発が進行中の地域である。住宅地に挟まれたこのゾーンは、川に意識を向けながら人々が留まることなく気持ちよく通り過ぎる空間を提案する。

5
子供たちが直接川に入り自然学習や自然観察のできる親水空間を提案する。諸事業体、小学校、グランベリーモールのテナント等と協同でイベントやワークショップも可能な親水活動の場を提案する。

6
元生協の建物をリノベーションしてコミュニティーセンターをつくる。鶴間地区の住民だけでなく、大学の学生や、自転車で行きかう人々の憩いの場として提案する。

／ONI　1

旧河川敷緑道
調整池

／ONI　2

調節池
河畔林公園

／ONI　3

グラウンド土手
落ち葉広場
せせらぎ広場

／ONI　4

あかり木
はらっぱ

／ONI　5

鶴間小学校川側門
川床
青道

／ONI　6

畑
コミュニティーセンター前広場
コミュニティーセンター

敷地とデザインコンセプト

空間としての広がり
＋
音としての広がり

波の振れ幅の大きいところ
＝人が集められるところ

波の振れ幅の小さいところ
＝人が集まらない、集まられないところ

川沿いにある建物の高さ、地形、
自転車歩行者専用道路との距離や、
建物の用途によって、周辺空間の広がり方が変わる。

学校そ前では大きく広がるが、
住宅のそばでは小さくなる。
公共性の高いところほど空間は広がりやすい。

両岸に交互にある景観資源は、
暴れ川と呼ばれていたころの境川が
作り出したものである。

その多くが私有地ではなく、市の土地となっているが現在活用されているものは少なく、空き地にフェンスがつけられているものが多い。

川沿いのある場所に立ったときに
空間の広がりによって
視線の動く幅や方向が変わる。

空間が大きく開けていると視線の動く幅も広がりを持つが、
住宅が迫ってきたり高い壁の
あるような空間では、視線は進行方向に向けられていることが多い。

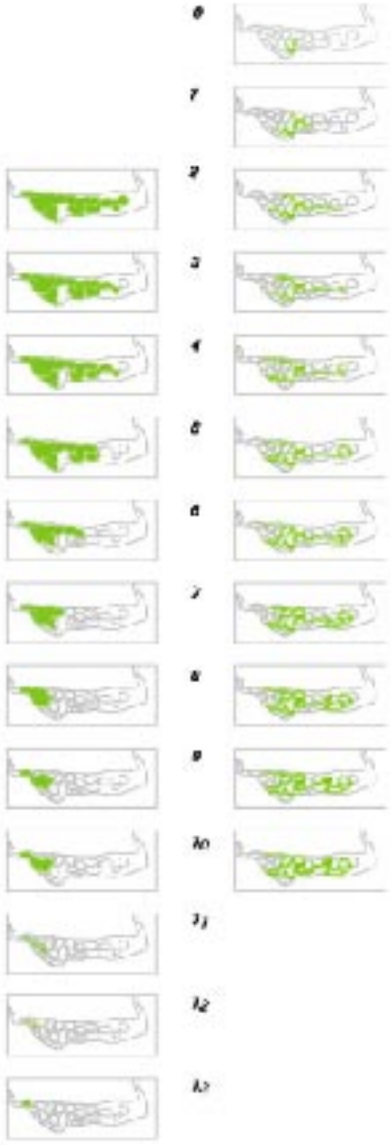
全体計画

・旧河川敷緑道完成
・グラウンド前土手にハナミズキの植樹
・せせらぎ広場完成
・東急建設及び、東京都にプレゼンテーション
・調節池、東急建設住宅開発工事開始
・青道に町田市からの支援を受け、境川緑の
　ルネッサンスが花を植える。

・調節池、東急建設住宅地完成
・鶴間小学校川側門完成。
→川沿いが通学路になる。
・青道花壇が川のそばまで広がる。
・生産緑地の市民開放開始。
・グラウンドが東側に移動。
・観音寺が壁に穴を開けると、畑で育てた花を
　お墓に供えるための花として売る花屋が発生。
・河川壁が30mm/hから50mm/h対応への
　改修工事開始。
→これに伴いグラウンド前の土手と女学館前の
　ワンズに親水空間をつくるの計画が上がる。

・調節池の開発終了後河畔林が公園として
　一部開放される
→河畔林公園
・小学校の授業の一環として落ち葉イスを作る。
　設置場所はグラウンド対岸の河畔林。
→これ以降毎年落ち葉イスの作成が行われる
　こととなる。
・境川の水質が向上。
・河川壁改修工事の祭に川床へおりる階段が
　作られる。
→小学校での川を利用した学習が可能に。
・東京女学館前の親水空間の完成にあたり、
　ここで集まった人を収容する施設が求められる。
→元生協の建物がコミュニティー
　センターとしてリノベーションされる。

・コミュニティーセンター完成
・青道の対岸に急勾配の壁を利用した
　フリークライミングウォールが完成。
→グランベリーモールとの共同で
　フリークライミング体験教室開催。
・河畔林に住宅地が広がることで新しい街灯設置の
　要望が住民から寄せられる。
→通常の街灯ではなく、河畔林の面影を残し、
　木をライティングすることで明るさを満たす。



s1-1

s1-2

s2-1

s2-2

s3-1

s3-2

s3-3

s4-1

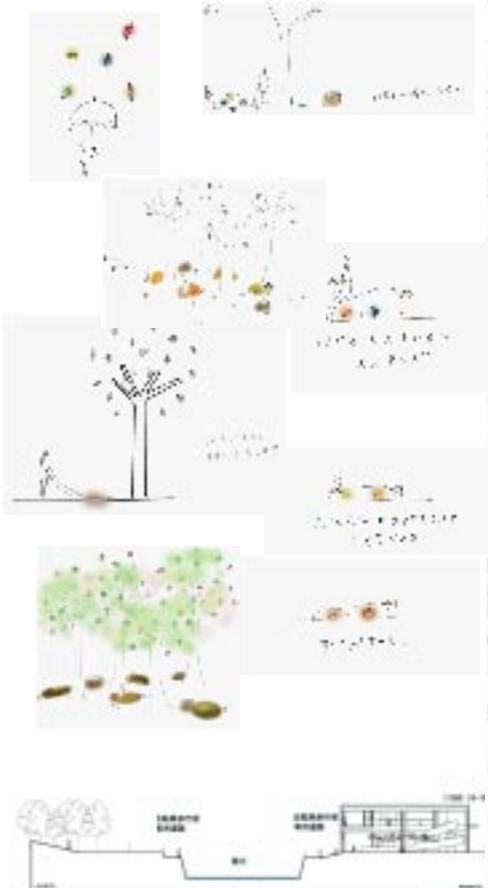
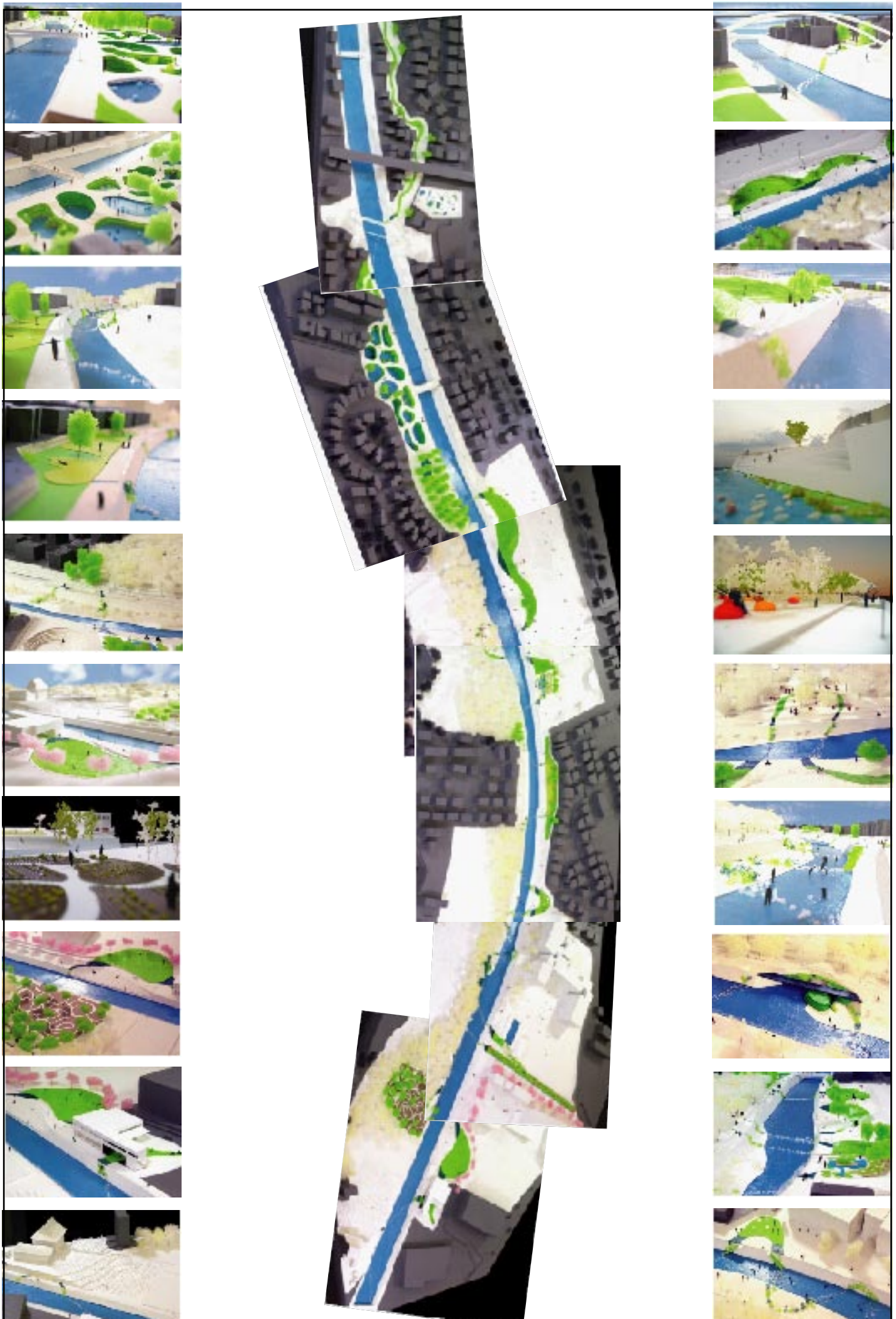
s4-2

s4-3

s5-1

s5-2

s6-1

s6-2

s6-3